



# 年間予定 平成25(2013)年度

詳細は当館ウェブサイト、チラシなどで順次お知らせします。

## 展示

- 企画展** ー5月7日[火]  
まなびの道具大集合！  
～むかしの道具で科学を知ろう～
- 企画展** 5月10日[金]ー8月18日[日]  
挿絵と表紙絵からみる  
教科書の世界
- 企画展** 8月23日[金]ー10月22日[火]  
学校のたからもの
- 特別展** 11月7日[木]ー12月10日[火]  
近代京都画壇を育んだ人たち
- 企画展** 12月14日[土]ー平成26年3月25日[火]  
青春と学校生活  
～戦後京都の中学・高校生活～(仮)
- 常設展** 通年  
番組小学校を中心に、京都の教育の  
独自性や学校と地域とのかかわりを  
各種資料で紹介。

## 催し

※要参加申込(詳細はウェブサイトをご覧ください、お問い合わせください)

|                |   |   |
|----------------|---|---|
| 子ども体験教室(小学生対象) | 7月20日[土]午前10時ー12時<br>明治の小学校 書写教室            | 第3[火]午後2時ー3時(8月を除く)<br>上村淳之館長談話室                  |
|                | 7月21日[日]午前10時ー12時、午後2時ー4時<br>博物館たんげんたい      | [月]午後2時ー4時<br>唱歌・童謡教室                             |
|                | 7月27日[土]・8月3日[土]午後1時30分ー3時30分<br>おもちゃの手作り教室 | [金]午後2時ー4時<br>合唱教室                                |
|                | 7月28日[日]・8月4日[日]午後1時30分ー3時30分<br>にほん画に挑戦!   | [火]午前10時ー12時30分<br>はじめての日本画                       |
|                | 12月頃開催予定<br>親子で風作りに挑戦!                      | [火]午後2時ー4時30分<br>日本画教室                            |
|                |   | [金]午前10時ー11時30分(9/13・20・27)(2/28・3/7・14)<br>古文書教室 |
|                |   | 2月頃開催予定<br>日本刺繍教室                                 |
|                |   |   |
|                |   |   |
|                |   |   |



## 京都市学校歴史博物館

〒600-8044  
京都市下京区御幸町通仏光寺下る橋町437  
TEL:075-344-1305 FAX:075-344-1327  
http://kyo-gakurehaku.jp/  
✉ rekihaku-jigyou@edu.city.kyoto.jp

当館は、京都の学校の歴史に関する資料の保存・研究・展示をすすめる博物館です。正門・石塀は、国登録文化財。

**京都市学校歴史博物館**  
開館15周年



- 開館時間** 午前9時ー午後5時(入館は4時30分まで)
  - 休館日** 水曜日(祝日の場合は翌平日)、12月28日ー1月4日
  - 入館料** 一般200円(160円)、小・中・高生100円(80円)  
※( )内は20名以上の団体料金  
※京都市内の小・中学生は土・日曜日の入館無料
  - 交通案内**
    - ◆ 阪急電車「河原町」下車 10番出口より南西へ徒歩5分
    - ◆ 地下鉄烏丸線「四条」下車 5番出口より東へ徒歩10分
    - ◆ 京阪電車「祇園四条」下車 3番出口より南西へ徒歩10分
    - ◆ 市バス「四条河原町」下車 南西へ徒歩5分
    - ◆ 市バス「河原町松原」下車 北西へ徒歩3分
- ※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

市バス・地下鉄  
経路検索サイト  
「洛ナビ」  
携帯はこちら  
から!



京都市学校歴史博物館だより

# 学歴博しんぶん

Vol.26  
発行：平成25年7月  
京都市学校歴史博物館

## もうすぐ開館15周年

京都市学校歴史博物館は、平成25(2013)年11月11日に、開館15周年をむかえます。11月には、特別展も開催予定。京都の学校の歴史に関する資料の保存・研究・展示をすすめる、日本唯一の学校歴史博物館ならではの展示をぜひご覧ください。

## 挿絵と表紙絵からみる教科書の世界

企画展 5月10日[金]ー8月18日[日]

教科書に描かれた挿絵や表紙絵は、よく見ると豊かな表情を持っています。思わず胸がときめくユニークなものから、時代背景を映した奥深いものまで、明治期から現代までの教科書の挿絵と表紙絵が勢ぞろいの企画展。昔の教科書の中にタイムスリップ!



向井潤吉「北信濃早春」 元豊園小学校蔵



文部省編「小学国語読本巻一」昭和7(1932)年文部省検査済

## 学校のたからもの

企画展 8月23日[金]ー10月22日[火]

京都の市立学校が所蔵する美術作品を紹介する展覧会。安井曾太郎や向井潤吉など近代を代表する画家たちの作品を含むコレクションは、京都ならではの「学校のたからもの」。日本画、洋画、西陣織、友禅染など、色とりどりの50点が一堂に並ぶ絶好の機会です!

## Special Exhibition 特別展

### 近代京都画壇を育んだ人たち

11月7日[木]ー12月10日[火]

上村松園、西村五雲、石崎光瑠、榊原紫峰、土田麦僊、村上華岳、小野竹斎、福田平八郎、徳岡神泉など、まさにきら星のごとく輝く画家たちの作品をご紹介します。近代京都画壇の精華をおたのしみください。



上村松園(楊貴妃) 松伯美術館蔵





# 「近代京都画壇を育んだ人たちが」、どんな展覧会？

開館15周年をむかえる京都市学校歴史博物館では、11月に特別展「近代京都画壇を育んだ人たち」を開催予定。「近代京都画壇を育んだ人たち」って、どんな展覧会だろう？展覧会を準備中の森学芸員へインタビュー！

Q いつの時代の作品を展示するの？

A 明治後期のものから、昭和初期のものまで幅広く展示します。近代の京都で活躍した画家の作品を一望できるような内容になっていますよ。



Q 「学歴博しんぶん」をご覧の皆さんへ、一言お願いします！

A 今回の展示では、人物や風景、花や鳥など、いろんな画題の作品が見られます。描く対象を見つめる視線も画家によってさまざまです。ぜひ来館いただいて、多彩な作品の中から、自分の好きな作品を見つけてみてください。



Q 紹介される画家は、どんな人たち？

A 確かな技量と革新的な画法で、近代の京都画壇を牽引した竹内栖鳳に学んだ画家たちです。みんな、同じ栖鳳門下にながら、自分たちの表現を模索し、近代を代表する作品を生み出しました。展示では、画家たちそれぞれの絵画制作の姿勢がよく分かる作品が集まりました。一望に見ただけで、実に多彩で、まるでいろんな花がいつせいに開いたように感じられるはずです。



## 学歴博のなかまたち

ぎょう し 凝視  
やまぐち かよう 山口華楊  
しやうわ ねん らくおうしやうがっこうぞう 昭和37年 洛央小学校蔵



向こうからやってきたライオンがふと歩みを止めて、何かをじっと見つめています。こちらの方を警戒しているのでしょうか。らんらんと輝く目と今にも動き出しそうな前足を緊張感を漂わせている一場面です。

この絵は、たて167センチ、よこ133センチもあってとても大きいものです。目の前に立つと、まるで本物のライオンと向かい合っているように感じられます。

作者の山口華楊は動物画の名手。描くときに大切にしていたのは動物の生命の美を表現することでした。華楊によって生命を吹き込まれたライオンはいつも、この絵をはじめ見る子どもたちをドキドキさせています。（学芸員：森学彦）

この作品は、企画展「学校のたからもの」(8/23-10/22)で展示予定。ぜひ本物の迫力を感じてみてください！



## 学歴博につき

3/2 [土]

### 京都の教育に息づいているエネルギー

—京都教師塾の皆さんご来館—



まなびの道具に触れる

「京都教師塾」は、小・中学校の教員を目指す大学生・社会人を対象とした京都市の講座。その受講生45名が、今年も団体観覧に来られました。

「近年の教育に関するニュースは、少子化・いじめなど暗いものばかりが目につきがちですが、京都の先人たちが『まちづくりは人づくりから』の信念により、学校創設や運営に力を注いできたのはまぎれもない事実。そのエネルギーが今も京都の教育に息づいていることを後世に伝えたい。教員とは夢のある素晴らしい職業だと実感してほしい！」という、当館主宰による熱の入った解説に心を動かされた受講生は、展示を熱心に見学していました。（スタッフO）

4/30 [水]

### 対面販売の個人商店

—京都女子大学の皆さんご来館—



「教科書の部屋」で昔の教科書を見る

恒例となっている京都女子大学発達教育学部児童学科の団体観覧。今日は40名が見学に来られました。当館の利点は、施設側と見学者の距離が近く、交流が図りやすいとい

うこと。お店に例えるなら、対面販売の個人商店ということでしょうか。私たちが快適に見学してもらえるように、こまめな心配りをし、疑問があればその場での対応を心がけています。これが、何年も来館が続き、恒例となっている理由ではないでしょうか。

百人の人がいれば百通りの自由な学びがあるのが、博物館での学びです。そこで「木を見て森を見ず」という結果にはならないように、これからも全体像が把握しやすい展示や説明を心がけていくつもりです。（スタッフKu）



## 「こんにちは、市民学芸員です」

今回は、市民学芸員※の「日誌」から、昨年の夏休みのある日の様子をご紹介します。日誌では、市民学芸員の皆さんがその日に気づいたことを自由に書いていただき、当館スタッフとやり取りしています。今年の夏休みも、小中学生の皆さんや親子でのご来館もお待ちしています！ ※市民学芸員…ボランティアで展示の案内をさせていただいている市民の皆さま。

7月22日[日]

いよいよ夏休みに入りましたね。小学生5~6名と保護者の方がご来館。子どもたちは静かに資料に入っていました。親子でクイズの答えを考えていらしたのがほほえましくて印象的でした。小さなお子さんには、給食が一番興味深いものですね。お母さんが「これがおばあちゃんや子どもの頃の給食。これがお母さんが子どもの頃の給食」と説明しておられました。「えっ！えびフライだけなの！」と子どもたち(笑)。石盤は今日の一番人気で、ほとんどの人が書いてたのしんでいらっやいました。

市民学芸員

### 募集！市民学芸員

「市民学芸員」として、当館で活動いただける新しいメンバーを募集中！詳細はお問い合わせください。

スタッフO